

スマホアプリで情報保障を

映画の音声に同期して、字幕・手話を表示、音声ガイドを再生します。

映画・映像のバリアフリー視聴拡大に取り組む、NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター（MASC）は、スマホのアプリ「おと見」（MASC開発、iOSおよびAndroidOS対応）を使って、映画館のスピーカーから流れる音声を拾って情報保障を行うサービスを発表しました。オランダのシボリューション社の音声透かし技術「SyncNow」を使って音声にタイム情報を埋め込み、スマホアプリ「おと見」と同期させてバリアフリーの字幕や音声ガイド等をスマホやタブレットPCに送出する仕組みです。

国内でも普及が進むスマートフォンとアプリをユーザーインターフェイスとして活用することで、より多くの方が手軽に情報保障を受けることができる画期的なサービスです。

第26回東京国際映画祭のバリアフリー上映企画（松竹配給「武士の献立」）にて、iPod touchを使い、バリアフリー字幕、英語字幕、視覚障害者用音声ガイドに対応します。
*スマホアプリは平成26年度より一般配信を計画しています。

【第26回東京国際映画祭】

バリアフリー上映に対応する新しい劇場設備と、

バリアフリー上映によって広がる観客の可能性についてのシンポジウム

日時：10月24日（木）11時～13時「武士の献立」上映 13時～14時シンポジウム

場所：TOHOシネマズ 六本木ヒルズ スクリーン3（プレスパスは事前登録必要）

主催：一般社団法人日本映画製作者連盟 / 公益財団法人ユニジャパン 共催：経済産業省
企画の詳細（<http://npo-masc.org>）

背景

現在、芸術へのアクセス保障を含む「障害者権利条約」の批准が近いといわれています。超党派による「障害者の芸術文化振興議員連盟」も設立され、映画・映像のバリアフリー化についても本格的な議論が始まりました。これまで一般社団法人日本映画製作者連盟加盟各社が中心となり、この問題に取り組んできましたが、劇場設備の関係で対応が遅れていました。このシステムを使うことで劇場設備は最小限で対応可能です。耳が聞こえない、聞こえにくい方には字幕、目が見えない、見えにくい方には音声ガイドが必要です。また超高齢社会、そして2020年東京オリンピックに向かう日本において、この動きがユニバーサルデザインにつながっていきます。

特長と将来性

- ・バリアフリー字幕の他、英語・中国語など多言語の字幕、手話等の映像、音声ガイド等の音声等、あらゆる情報の配信がスマートフォンなどのセカンドスクリーンで同時に対応可能。
- ・ヘッドマウントディスプレイを使用することでスクリーンの前に字幕が浮いて見える。
- ・電波や無線LANを一切使用しないため、映像や音声を流せる装置と携帯端末さえあれば、どこでも誰でも利用可能。
- ・携帯端末を持込可とすれば、映画館の設備投資は不要。
- ・映画館の他、博物館・美術館の映像展示物、アトラクション等への対応も可能

技術協力：シボリューション社 SyncNow (<http://www.syncnow.com>)
アイティアアクセス株式会社 (<http://www.itaccess.co.jp>)

<団体概要>

【理事長】 山上徹二郎
【設立】 2009年6月25日
【事業内容】 映画、アニメなどの映像コンテンツに対する、情報保障を推進する。
【URL】 <http://npo-masc.org>

<本件に関するお問い合わせ>

NPOメディア・アクセス・サポートセンター
事務局長 川野浩二
TEL:03-5937-2230 FAX:03-5937-2233
MAIL: info@npo-masc.org